

関東の霊水 1

御岳山探訪記

30-Jan-2009

Gainendesign Labo. Taizan

586 Takakura Fujisawa-shi Kanagawa-ken Japan 252-0802

Tel/Fax 0466-43-4713 Email taizan@gainendesign.com HP <http://www.gainendesign.com/>

探訪の趣旨

既に「ピラミッド山の構造論」★の中で、ピラミッド山が構造上、“水”に大きく関わるものであることを提議してきた。実際にピラミッド山として考えられる聖山には、「三角形の美」と「浄化装置としての川や滝」が見事に付随している。

★「阿波邪馬台国説」 <http://www.gainendesign.com/taizan/awayamataikoku.pdf>

私の家系はざっくりと言えれば父母ともに武家の流れで、父方は父を入れて8代江戸に居住している。それ以前は長野の真田、山形の上杉あたりと繋がっているようだ。そして現在住んでいるところは神奈川県の大山の麓、“高倉”と称するところで、生まれてから今日まで、さらに遡れば江戸時代に至るまで、長きに渡って関東に住みついている。

灯台もと暗しとはよく言ったもので、神奈川、東京、埼玉あたりはピラミッド山や巨石探究の対象としてあまりしてこなかった。それは子供のころからあまりにも親しんでいる処なので、探究の対象というよりは「よく遊んだ庭」という感覚だったからである。

子供のころは富士山も大山も自宅の庭から毎日眺めることができた。日向薬師や御岳は遠足のコースだったりした。あらためて考えてみれば大山は大型のピラミッド山であるし、日向薬師の背後の日向山もそうである。大山の肩越しに見える富士山もピラミッド型だ。御岳山にも美しいピラミッド山がある。

縄文時代から弥生時代の移行期にかけて、およそ日本全土の人口は約60万人位であり、その殆どが東日本に住んでいたというデータがある。AD2～3世紀の邪馬台国、卑弥呼そして大和王権成立の黎明時に、西日本に大量の大陸・半島経由の人口流入があったとされる。その当時より神奈川、東京、埼玉、茨城の平野部はかなりの部分が湿地帯で人が住むには不向きであったようだ。埼玉あたりから出土する大量の貝塚遺跡は、往時海岸線あるいは湖沼が関東平野のかなり奥地にまで入り込んでいたことを物語っている。

神奈川、東京、埼玉を南北に結ぶライン上には古来霊水と呼ばれる“水”が存在している。一説には、関東は水に関わる“霊域”であり、長らく神聖なるゾーンとして保持されてきたと言われている。

今回はその中の御岳に関する探訪記である。

所在地

御岳山御嶽神社（みたけやまみたけじんじゃ） 場所 東京都青梅市御岳山176

JR青梅線御嶽駅下車、駅前からバスで滝本へ。ケーブルカーで御岳山駅へ。徒歩約15分で到着。

参考地

秩父今宮神社（ちちぶいまみやじんじゃ） 場所 埼玉県埼玉県秩父市中町16-10

武甲山（ぶこうさん） 場所 埼玉県秩父市、横瀬町

日向薬師（ひなたやくし） 場所 神奈川県伊勢原市日向1644

探訪地；関東の霊水域

今回のメインは『御岳』である。関東平野を鳥瞰すると分かるが、関東平野は栃木、茨城の山間部による横のラインと、神奈川、東京、埼玉の山間部による縦のラインに囲まれ、西北方向の群馬県榛名山に深くいりこんだ形状をしている。私がよく訪ねる花崗岩系の山間部とは異なって、関東平野の多くの部分は火山岩や堆積岩によって形成されている。

御岳周辺はその、縦方向の山間部、具体的には南から丹沢・大山山系、御岳山系、秩父山系によって平野部と接する下図のような地点にある。日向山、御岳、武甲山はおそらく偶然だろうが一直線上に並んでいて、それぞれ有名な湧き水がある。石灰岩、堆積岩、火山岩等の地層を濾過されながら湧き出た清水は、浄化機能を有するだけではなく、飲用してもすこぶる美味の清冽な霊水なのである。ピラミッド山と浄化のための水の繋がりは極めて深いと考えているが、今回の探訪においても、それが確認できたことは非常に大きな収穫であった。



秩父今宮神社の御神体山が武甲山。武甲山は全山石灰岩でできた岩石山で、美しいピラミッド形状を呈する。武甲山を水源とする伏流水が秩父今宮神社に湧き出ている。…清龍の滝・龍神池

日向山は霊峰大山のほぼ東にある小山で、これも明らかにピラミッド山といえ、いくつもの要件を具備している。日向山は火山の岩石類および堆積岩で形成されている。

今回の探訪地である御岳は堆積岩の一種であるジュラ紀付加体によって形成されている。

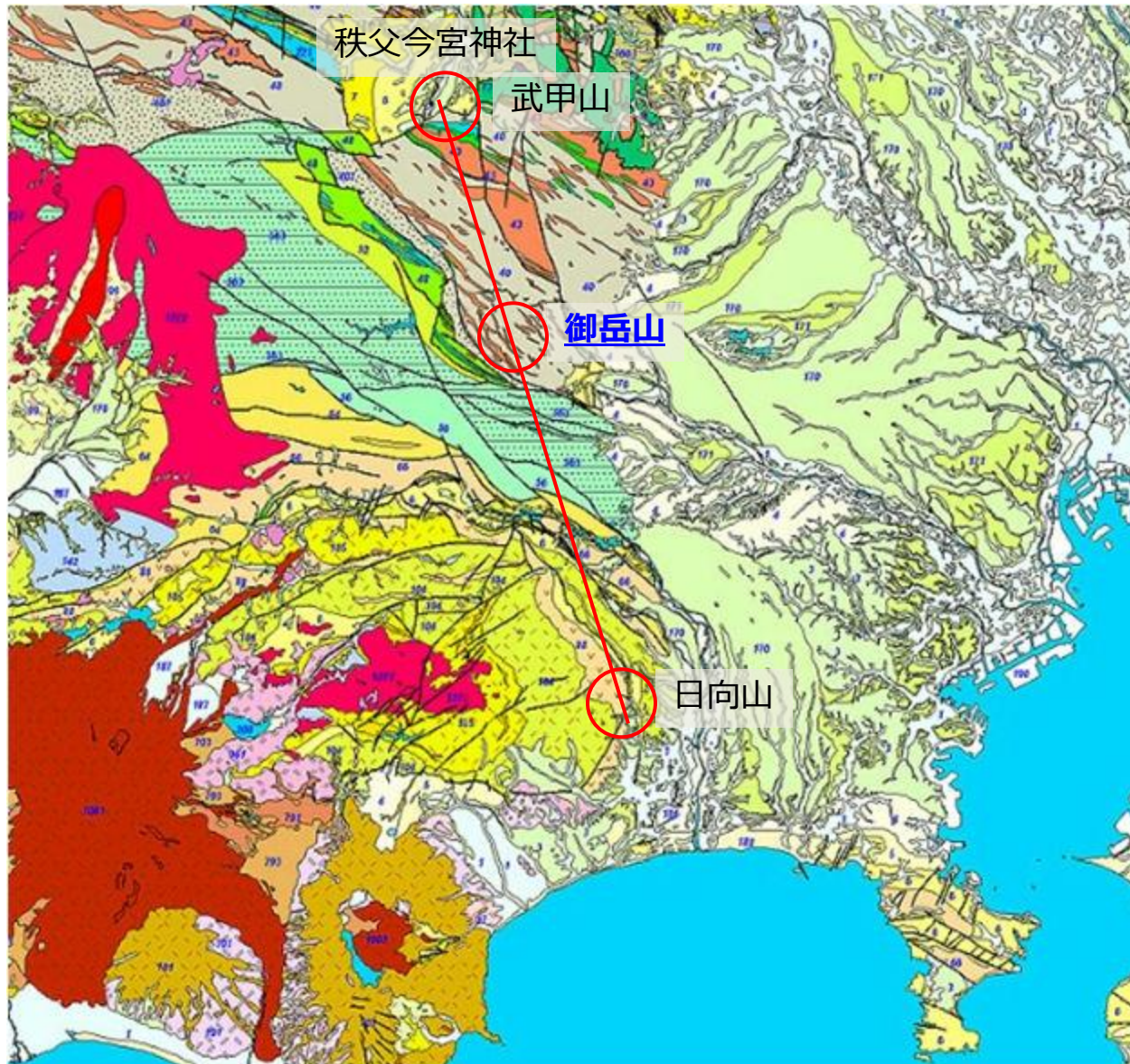
関東平野の平野部（イラストの白い部分）は海成・非海成の堆積物によってできている。

関東の霊水は日向山、御岳、武甲山などの山間部の縁にあたる山から平野部に流れ出している。後掲の地質図からも分かるように、複雑な地質から平野部に湧き出ているわけで、感覚的に浄化のフィルター機能が強いものと思われる。

御岳も含め、これらの対象地には有名な寺社が伴っている。

探訪地と関東の地質

「古代の巨石遺構群はその多くが花崗岩系の地質上にあることが多いが、著名な関東の霊水域としての今回の探訪地は、火山岩、付加体等花崗岩系ではない」…ことが特徴である。



←石灰岩ブロック

←ジュラ紀付加体

←火山の岩石類



御岳山探訪記 2008年11月18日

御岳山

御岳山への散策路

目指すは奥宮男具那ノ峰（オグナノミネ）



御岳山駅を降りるとすぐに、武蔵御嶽神社の鳥居と参道が続く。鳥居の向こうに見える美しい三角形が今回の探訪ポイントである奥宮がある男具那ノ峰（オグナノミネ）。この瞬間から男具那ノ峰がピラミッド山に間違いないと確信した。

御岳山探訪記 2008年11月18日

御岳山

神代けやき



武蔵御嶽神社



御岳山探訪記 2008年11月18日

御岳山；奥宮男具那ノ峰

奥宮がある男具那ノ峰（オグナノミネ）の頂上付近に垣間見える白い岩塊。ここに行くのは極めて困難。予想としてはこの周辺に天の岩戸構造があるのではないかと考えている。



長尾平から日の出山、都心を望む



ピラミッド山の条件の一つでもある…「美しい景観を伴う」場所。空気が澄んでいれば関東平野が一望できる。また、日の出山から朝日が昇るのも見ることができる。長尾平はかなり大きな平坦部でハイカーたちが休息をとる格好の場所である。

御岳山探訪記 2008年11月18日

奥宮；男具那ノ峰へ

参道入り口鳥居と天狗の腰掛杉



橘姫命の碑

今回の探訪中に最も心ひかれたものの一つがこの「橘姫命の碑」である。後述するように男具那ノ峰山頂の奥宮には日本武尊が祀られているが、橘姫命は三浦半島の走水で入水された日本武尊の妃である。男具那ノ峰へ向かう途中に、まるで奥宮を見守るかのようにこの石積みの碑が鎮座している。



橘姫命の碑

碑



周辺の白い巨石



御岳山探訪記 2008年11月18日

橘姫命を祀るマウンド

橘姫命の碑をさらに山頂に向けて進み、ふと振り返るとそこは尾根上に築かれた小さなマウンドになっていた。その上に碑が積まれているのである。参道途中にときどきこうしたマウンド状の構造を見かけることがある。重要なポイントだろう。

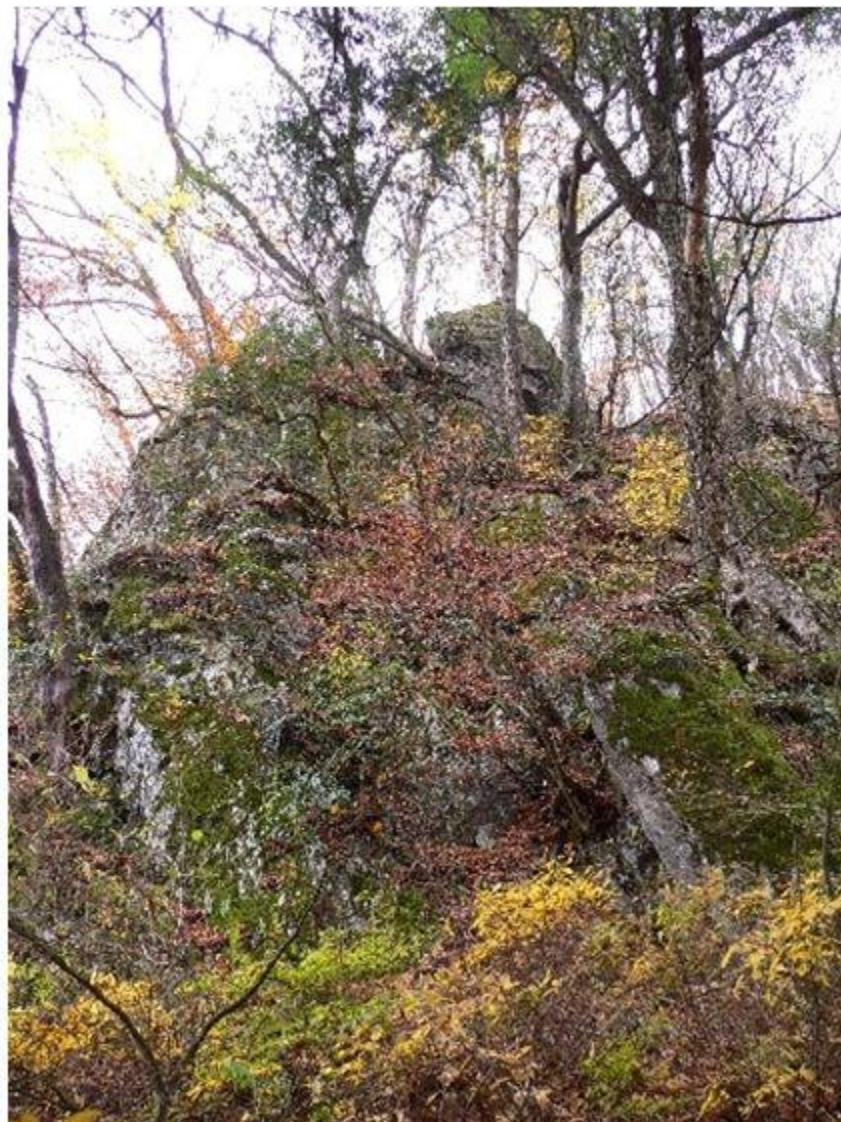


御岳山探訪記 2008年11月18日

奥宮；男具那ノ峰登山路

巨岩の岩壁

登山路の巨岩



御岳山探訪記 2008年11月18日

奥宮；男具那ノ峰登山路

左が断崖の鎖場

巨石上の樹木



御岳山探訪記 2008年11月18日

御岳山奥宮

奥宮付近から見下ろす長尾平

奥宮拝殿



拝殿横の碑



拝殿後ろの岩盤



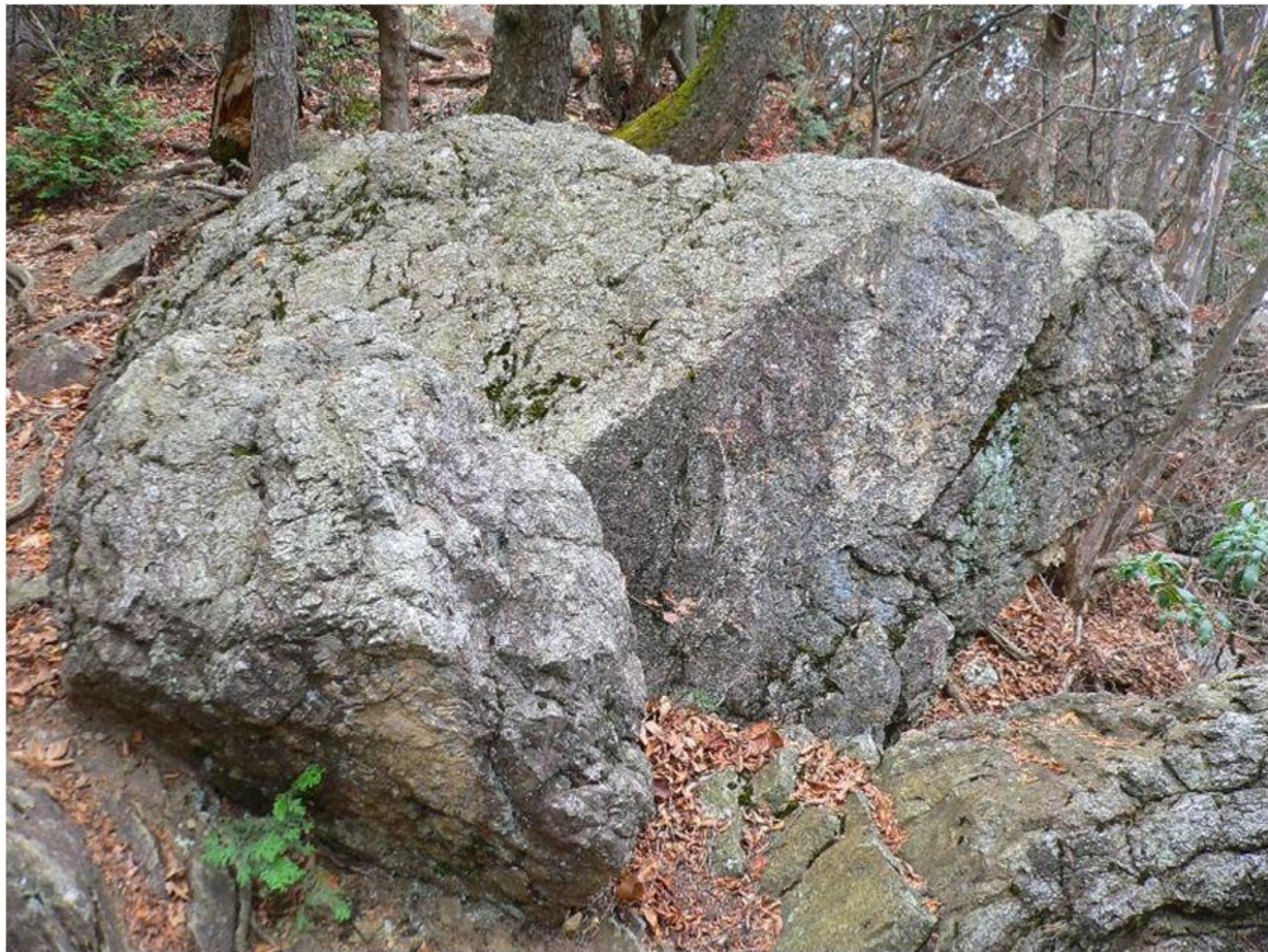
御岳山探訪記 2008年11月18日

奥宮；男具那ノ峰頂上



御岳山探訪記 2008年11月18日

奥宮；男具那ノ峰の巨石



御岳山探訪記 2008年11月18日

奥宮；男具那ノ峰

山頂の異形の樹

山頂～鍋割山ルート



御岳山探訪記 2008年11月18日

紅葉の男具那ノ山峰；奥宮







滝壺



祓門大神



サイズ比較





御岳山探訪記 2008年11月18日

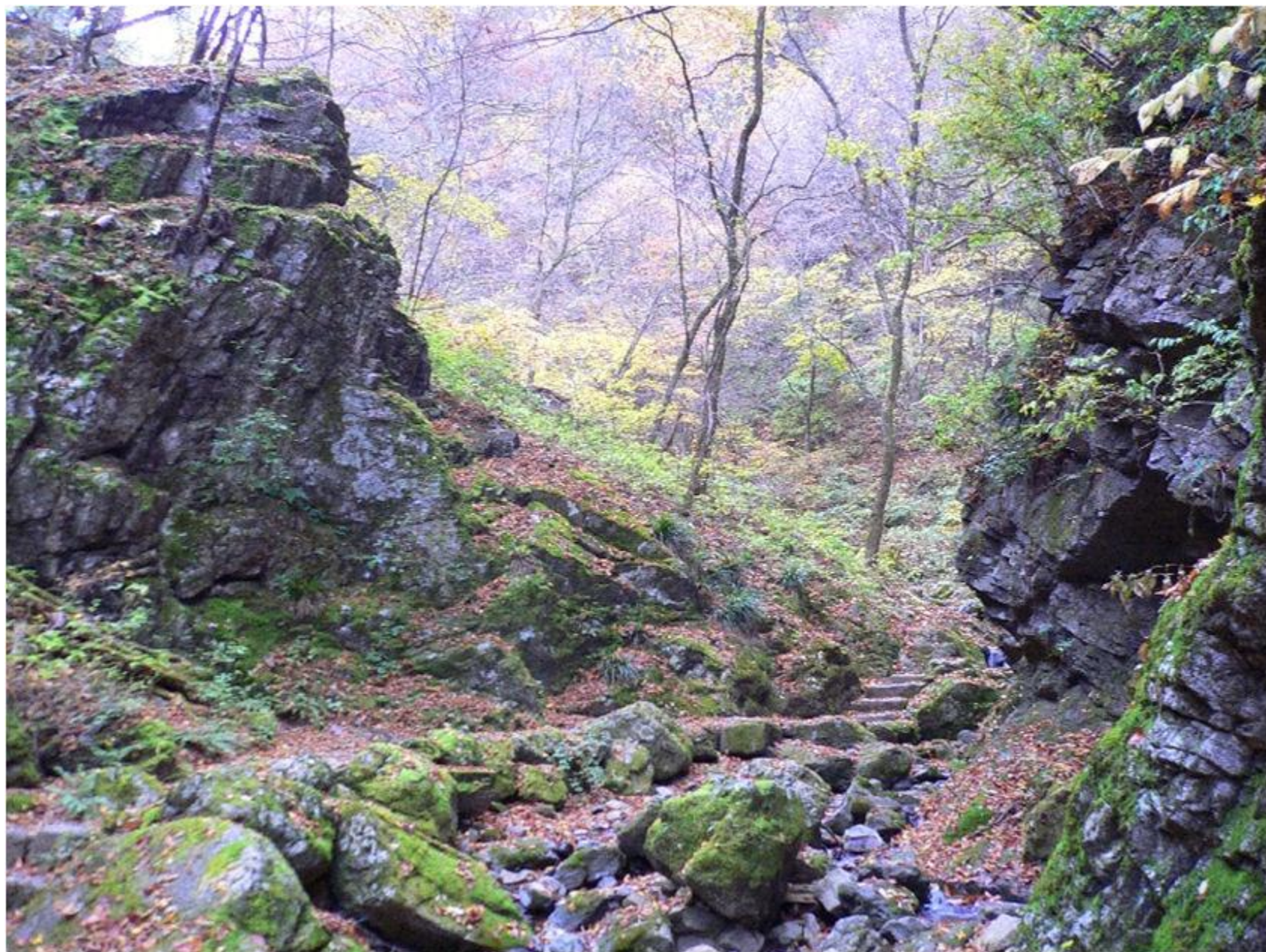
岩戸構造



御岳山探訪記 2008年11月18日

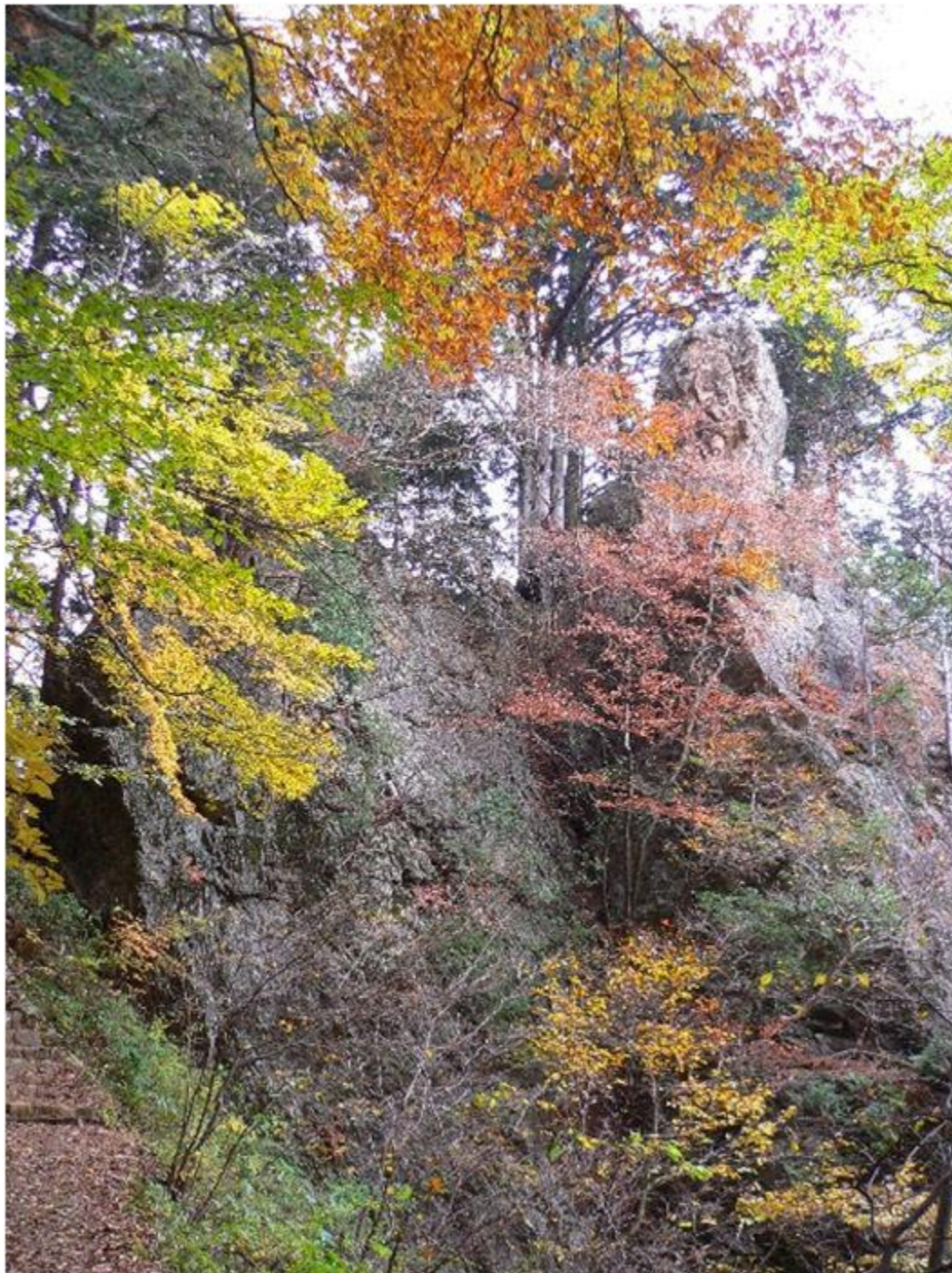
古代祭祀跡…か
前ページ岩戸構造の下部





御岳山探訪記 2008年11月18日

天狗岩
ロックガーデン方向
から見上げたところ。





人物との比較イメージ

御岳山探訪記 2008年11月18日

七代の滝



御岳山探訪記 2008年11月18日

清流・紅葉と日の出山



御岳山探訪所感

11月という時節もあってか、そのあまりの紅葉の美しさに酔いしれた御岳探訪であった。ピラミッド山や巨石を探訪する場合、私に限って言えば、それ以外の探訪目的は持たないのが通常なのだが、それでも時として、今回のように紅葉や、沈む夕日の美しさ、真っ青な空に描かれた白い龍雲の妙、花の香りに…心が奪われ、しばし時を忘れることがある。否、むしろそうした大自然の営みの中にこそ山や石を愛でることが必要な作法なのかもしれない。

多くのピラミッド型の美しい三角形を呈する山々の中で、ピラミッド山（日本ピラミッド）として重要な要件は、まず第一義はその秀麗なる三角形状である。この形がなければ天・地・人のエネルギー流入システムが成立しないだろう。その意味で、御岳山頂駅を降りた瞬間から目に飛び込んでくる本命；男具那ノ峰の美しさは群を抜いている。

第二義はピラミッド構造体として「水の浄化機能」があるかどうかだが、これについても、男具那ノ峰の南麓から飲用可能な霊水が流れ出ていて、それはやがて綾広の滝となり、「岩園；ロックガーデン」の中を流れ降りる。綾広の滝の背面には明らかに古代の祭祀場と思しき階段状の施設跡が存在し、実際に綾広の滝で禊ができる。

綾広の滝を下り、七代の滝を過ぎると御岳周辺で最も特徴のある巨石；天狗岩がある。天狗岩の最上部には現在は天狗像が置かれているが、この巨石上部は祭壇風な場所でもある。

武蔵御嶽神社は男具那ノ峰（1077m）の東側手前の御岳山（929m）の山頂にあるが、ここから男具那ノ峰を仰ぎ見ることを考えれば、御岳山が男具那ノ峰の拝殿山に相当するとも言える。

さらに男具那ノ峰頂上付近直下の断崖部分には白い巨岩が剥き出しになっていて、かなりの確度でこの岩石周辺に、“陰陽の陰”を示す天の岩戸構造があるのではないかと推測している。この断崖部分へのアプローチはおそらくロッククライミングの専門家の手を借りなければ不可能だろう。いつか若い人のアシストを借りてこの断崖を調査したいものである。

総じて言えば、東京の御岳山（男具那ノ峰が中心）はピラミッド山の範疇に入れられると思う。

男具那ノ峰の男具那とは日本武尊のことであり、それに因んだ橘姫命関連の積み石塚も大和朝廷成立後の事業であると考えるのが妥当だろう。武蔵御嶽神社の御祭神は櫛真智命、大己貴命、少彦名命、安閑天皇、日本武尊、創建は崇神天皇期といわれる。

心象的には前述のように、奥の院男具那ノ峰へ向かう途中に出会った「橘姫命のマウンドと石塚」がなんともいえぬ佇まいを醸し出していて、趣深い登拝になった。

神奈川の日向山、埼玉の武甲山と共に東京の御岳山は関東平野に霊水を供給し、関東平野を霊水域とさせている源になっていると言える聖山であることはたしかである。

2009年1月30日

古代遺跡探究家 泰山